

宮崎県NPO活動支援センター主催  
平成21年度企画力アップ講座

# 民間助成金の活用・攻略法

2010年3月6日（土）

日本財団海洋グループ  
海洋安全・教育チーム  
荻上 健太郎

<http://blog.canpan.info/kaizokudan/>

1. NPOの多様な資金源
2. 助成金の性格と特徴
3. 助成金を申請する前に
4. 助成金を獲得した後に
5. 申請書作成のポイント

# 1. NPOの多様な資金源

# 1. NPOの多様な資金源

資金源の話の前に・・・

＜NPOの「資金」以外の経営資源＞

- ①ヒト
- ②もの
- ③情報
- ④ノウハウ
- ⑤人脈（ネットワーク）
- ⑥ミッション（目的、情熱）

これら資金以外の経営資源を見直し、有効活用しよう！

# 1. NPOの多様な資金源

【ワーク】みなさんの経営資源を書き出してみましよう。

	すでに活用	活用したい (可能性)
①ヒト		
②もの		
③情報		
④ノウハウ		
⑤人脈		
⑥ミッション		
記入例 ②もの	会員に地主がいるので、自然体験の場として田んぼを無償で提供してもらっている。	地元の企業で事務所移転の話を聞いたので、古くなった什器備品を譲ってもらいたい。

# 1. NPOの多様な資金源

## <NPOの資金源は？>

- ・ 政府・自治体→税収
- ・ 企業→売り上げ
- ・ NPO→多様！

①持ち出し

⑤補助金、助成金

②会費

⑥委託金

③寄付

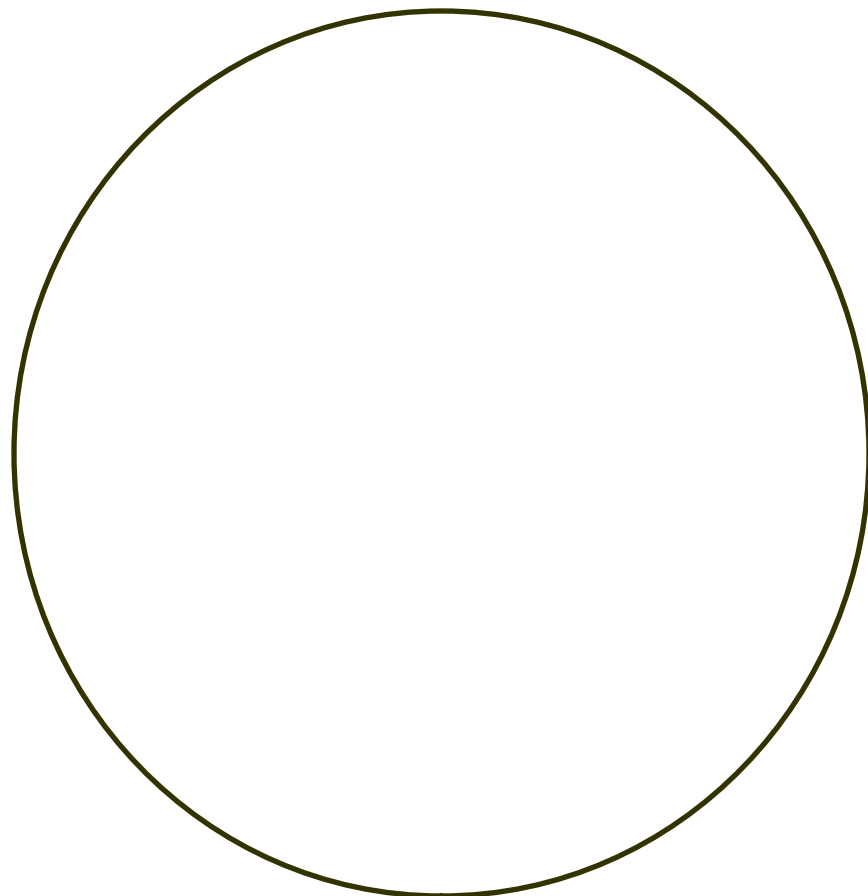
⑦融資（NPOバンク）

④事業収益

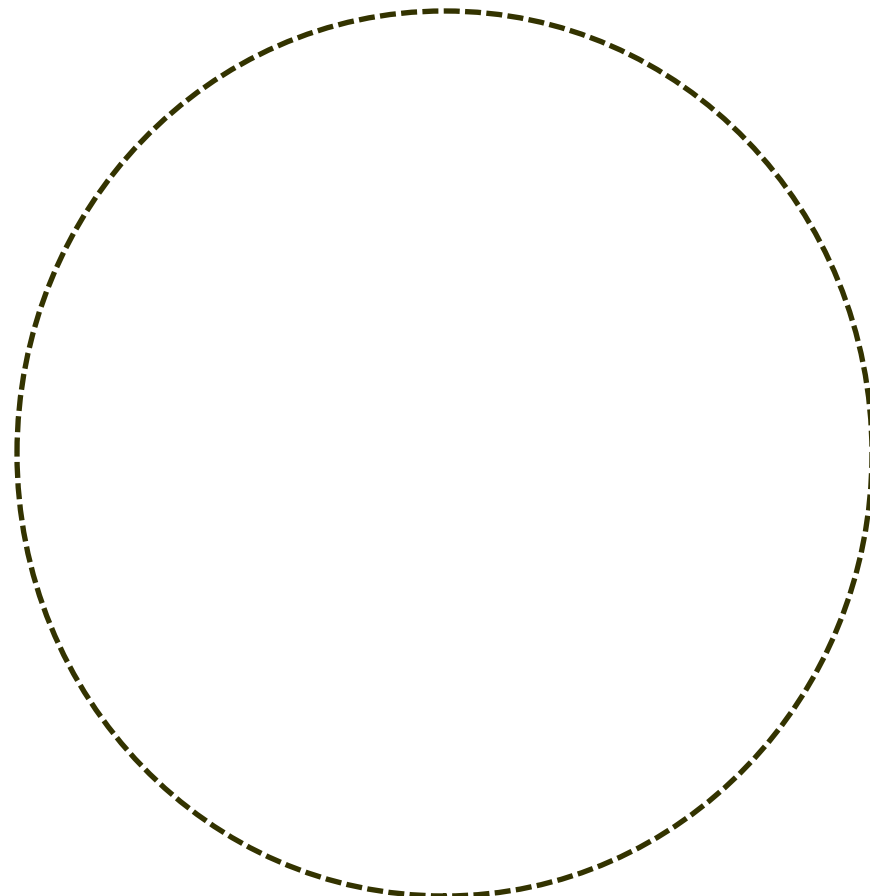
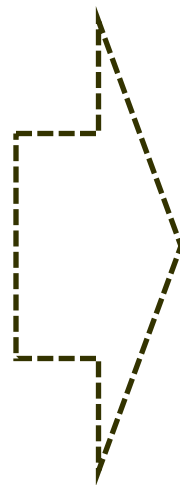
⑧税金（条例による）

# 1. NPOの多様な資金源

【ワーク】 みなさんの財源を円グラフで確認しましょう。



<現状>



<ありたい姿>

- ①持ち出し ②会費 ③寄付 ④事業収益 ⑤補助金、助成金 ⑥委託金 ⑦その他

# 1. NPOの多様な資金源

## <自主財源と他主財源>

### ◆自主財源

①持ち出し ②会費 ③寄付 ④事業収益

### ◆他主財源

⑤助成金、補助金 ⑥委託金 ⑦その他

→最後に頼りになるのは「自主財源」です。

→まずは「自主財源」の確立を目指しましょう。

→事業規模と財源のバランスが重要。

## 2. 助成金の性格と特徴

## 2. 助成金の性格と特徴

### ＜助成金に対する3つの誤解＞

- (1) 良い活動をしていれば助成金はもらえる。
- (2) 助成金は自分たちを助けてくれるお金である。
- (3) 不採択になったのは思いが伝わらなかったから。

## 2. 助成金の性格と特徴

そもそも助成金とは？（広辞苑より）

### ①助成金

事業や研究などを助けて成就させること。力を添えて成功させること。

### ②補助金

不足を補うために出す金銭。特定の事業の促進を期するために、国または地方公共団体が公共団体・私的団体・個人に交付する金銭給与。

## 2. 助成金の性格と特徴

### 助成財団にとって助成金とは？

#### (1) 目的を達成するための投資

- ・ 助成財団にもそれぞれ存在目的がある
- ・ その存在目的を達成するために、助成金という手段を持つ
- ・ 投資だからこそ、投資した以上のリターンを期待する

#### (2) NPOは目的を達成するためのパートナー

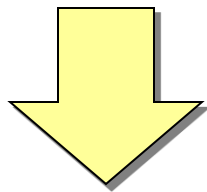
- ・ 自分たちのもっていない手段（人、ノウハウ、現場）を持つ
- ・ お互いに手段・強みを持ち寄ることで目的達成を目指す
- ・ パートナーだからこそ慎重に選ぶ（審査する）

## 2. 助成金の性格と特徴

### <助成財団の現状>

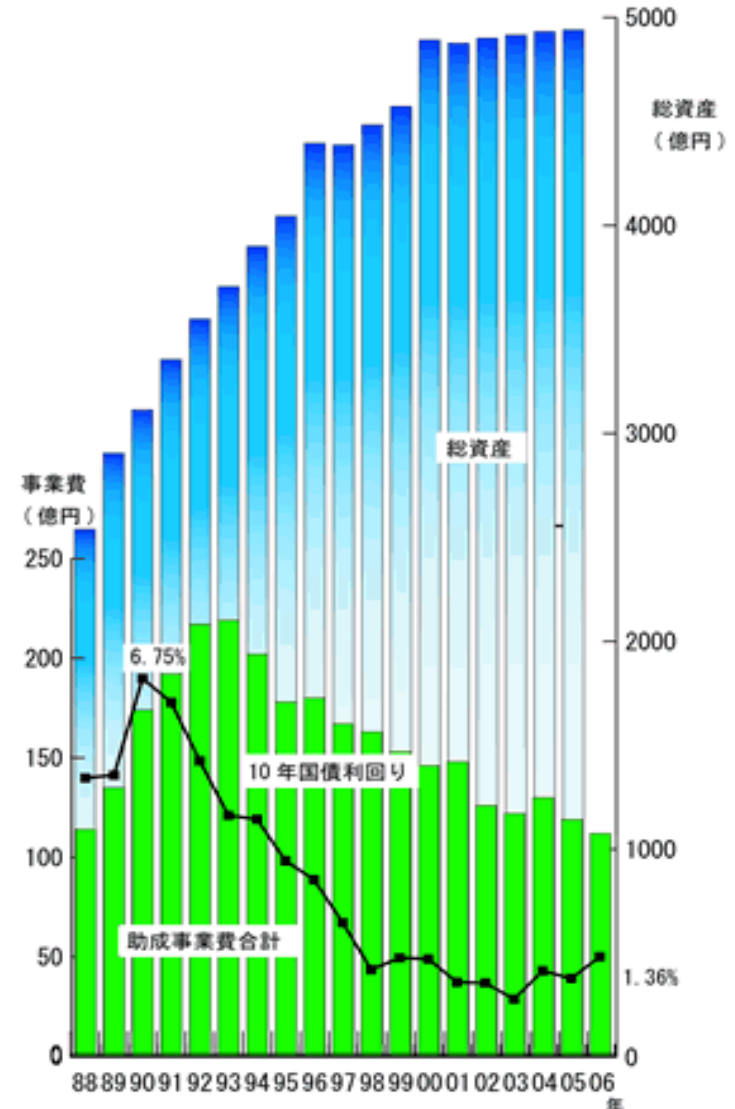
助成財団 1,165団体

低金利で助成事業費は  
減少を続けている！



助成プログラムを

廃止、休止する財団  
も！



## 2. 助成金の性格と特徴

### 助成金の種類も多様！

	種類		
(1) 募集方法	公募型	計画型	待ち受け型
(2) 助成対象	事業助成 (管理費無し)	事業助成 (管理費有り)	基盤助成
(3) 自己負担	有り	無し	
(4) 用途	自由	制限有り	特定
(5) 支払方法	前払い	精算払い	
(6) 選考方法	事務局審査	選考委員会	投票など
(7) 期間	単年度	複数年度	継続
(8) 出し手	助成財団	行政・国	企業

性格と特徴をよく確認することが重要！

## 2. 助成金の性格と特徴

### ■必ず押さえておくべき助成金の性格と特徴

#### ①目的に合わない事業は対象にならない

助成金には必ず目的があるので、その目的に合わない事業はどんなに良い事業でも対象にならない。

#### ②事業助成が中心

多くの助成金は事業に対するものであり、団体の管理運営費は対象にならない。

#### ③単年度・単発が多い

単年度かつ単発の助成金が多いので、長期的な取り組みが必要な事業への継続的な支援は望めない。

#### ④事務能力が求められる

企画力、申請書作成力、事業遂行力、報告書作成力、情報発信力など、様々な能力を求められるが、その多くは事務能力が伴う。

## 2. 助成金の性格と特徴

### ■事業のレベルと助成金のレベル

- (1) 対症療法のレベル
- (2) 予防のレベル
- (3) 仕組みづくりのレベル
- (4) 社会を変える基盤強化のレベル

※助成金の目的によって期待する事業のレベルが異なる。

※一般的に、助成金額が大きくなるほど、(3) や (4) のレベルが求められる。

### 3. 助成金を申請する前に

### 3. 助成金を申請する前に

助成金の申請を検討する前に・・・

まず最初に確認すべき3つのこと

(1) なぜ助成金が必要なのか？

(2) 助成金で何をしたいのか？

(3) その先の展開の見通しはどうか？

※団体の経営戦略や事業計画との整合性を忘れずに！

### 3. 助成金を申請する前に

申請を検討する際に忘れてはいけない3つのポイント

#### (1) 「きっかけ」資金

- ・ 新たな活動開始時、サービス内容の変更時等のきっかけに
- ・ 団体の定常的な活動や管理費は対象になりにくい

#### (2) 終了後の展開をしっかりと考える

- ・ 継続するのか・しないのか？
- ・ 継続するためには何が必要か？

#### (3) 自分たちの育成・元気につながる要素を忘れない

- ・ 事業を通じて新しいノウハウ、専門性などを身につけられるか？
- ・ 活動基盤の強化を目的とする事業も対象になる制度もある

# 3. 助成金を申請する前に

## 助成金の申請を検討する際の3ステップ

(ステップ1) 情報収集

(ステップ2) 募集要項

(ステップ3) 事前相談

# 3. 助成金を申請する前に

## ステップ1：情報収集

### ■情報源

- ・インターネット
- ・地域の間接支援組織
- ・新聞（地方紙）／口コミ

### ■情報の整理

- ・ファイリング
- ・カレンダー

### 3. 助成金を申請する前に

#### <募集の年間カレンダー>

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



☆助成金A（当年度対象）  
募集（4月）（結果は7月）

☆助成金B（当年度対象）  
募集（6月）（結果は11月）

☆助成金C（当年度対象）  
募集（8月）（結果は11月）

☆助成金D（翌年度対象）  
募集（10月）（結果は翌3月）

☆助成金E（翌年度対象）  
募集（10月）（結果は翌3月）

※募集の時期は大きくは変わらないので、一度カレンダーにすれば便利！

# 3. 助成金を申請する前に

## ステップ2：募集要項

### ■要件の確認

- ・ 助成制度の概要を把握する。
- ・ 対象／対象外を知る。
- ・ 制約条件を確認する。

### ■ねらいや好みを知る

- ・ 趣旨や審査基準で助成する側のねらい・好みが分かる。
- ・ 過去の助成実績などで傾向を把握。
- ・ 記入例はヒントの宝庫。

# 3. 助成金を申請する前に

## ステップ3：事前相談

### ■分からないことを確認

- ・募集要項を読んでも分からないことを確認。
- ・審査基準（〇〇性など）の意味を知る。
- ・助成する側が求める事業のレベル感を確認。

### ■事業計画を改善

- ・第三者に相談することで、計画改善のヒントを得る。
- ・多くの事業を見ている助成財団は格好の相談相手。

### ■信頼関係の構築

- ・相談相手という関係から信頼関係を構築する。
- ・申請のみでなく、情報交換、何かで役に立つ相互関係の構築。

# 3. 助成金を申請する前に

## 事前相談の際に注意すること

### (1) 相談する内容を整理しておく

- ・整理しておかないと聞き忘れてしまう。
- ・できれば箇条書きで質問点を書き出しておく。

### (2) 要望よりも確認を中心に

- ・要望だけでは相手も対応のしようがなくなる。
- ・相手の考え方や条件の確認を中心に。

### (3) 早めに動く

- ・締め切り間際ではもう遅い。募集期間の前半までに！
- ・募集時期に関わらず、事業計画を立てる時期にも相談を！

### 3. 助成金を申請する前に

#### 忘れてはいけない心構え

(1) 不採択になっても気にしすぎない。

- ・ 基本的には、制度や審査基準を合わないことが理由。
- ・ 活動や人格の否定ではないので、深刻に悩みすぎない。

(2) 不採択の理由を問い合わせる。

- ・ 結果の通知には理由が記載されていない場合も多い。
- ・ 問い合わせれば、ある程度は教えてもらえる。
- ・ 理由を把握していないと、次も同じ結果になってしまう。
- ・ 次への課題が分かることも。（転んでもただでは起きない）

(3) 一度や二度であきらめない。

- ・ 助成金は競争率が高い（5倍10倍は当たり前）。
- ・ 一度や二度であきらめない粘り強さが必要。

## 4. 助成金を獲得した後に

## 4. 助成金を獲得した後に

助成金は獲得してからが肝心です。

＜事業実施の際に気をつけること＞

- (1) ルールの確認や連絡はマメに行う。
- (2) 事業の実施状況を積極的に発信する。
- (3) 助成を受けていることを積極的に周知する。

## 4. 助成金を獲得した後に

助成金は獲得してからが肝心です。

＜事業終了後に気をつけること＞

- （1）事業報告書は貴重な成長の機会と捉える。
- （2）成果を積極的に周知する。
- （3）連絡を途絶えない。

## 4. 助成金を獲得した後に

＜助成金だけではないWin-Winな関係構築を＞

- （1）助成財団自身も成果と進化を求められている。
- （2）成果をあげられるのは自分たちしかない。
- （3）助成制度の改善には現場の声やニーズが不可欠。
- （4）積極的で継続的な連絡と情報交換を。

助成金だけの付き合いを超えたWin-Winな関係を構築！

## 5. 申請書作成のポイント

# 5. 申請書作成のポイント

## ①申請書式を守る

申請書式は助成財団がこだわって作っているもの。文字数制限を守らない、書式を逸脱するなどは、マイナス効果となる。

※書式で表現しきれない部分を添付資料で補足する。

## ②文章力はいらさない

申請書はエッセイではなく事業計画書。美しい文章表現や感動を誘う文章などは不要。

※長い文章よりも箇条書きで要点を簡潔に記述する。

※特に外部審査員は短い時間で申請書を読まなければいけない。

## 5. 申請書作成のポイント

### ③平易な表現を心がける

審査担当者は専門家とは限らないので、専門用語の羅列はNG。分かってくれるはずではなく、分かってもらうにはという意識で。

※分かっていない相手を分からせる説得力が求められる。

### ④解決策と実現性を具体的に記述

助成金でなにができ、それによりなにがどう変わるのかを具体的に記述する。

※問題や課題、思いの記述だけではだめ。審査の視点は解決策とその実現性。

## 5. 申請書作成のポイント

### ⑤ 予算書は算出根拠を明確に

いまどき、〇〇一式□□万円ではとおらない。事業計画と連動した合理的な予算づくりを。

※対象になる経費とならない経費があるので募集要項をよく確認。

### ⑥ 事業内容、予算書、スケジュールの連動性を確認

事業計画がしっかりしているかどうかは、連動性をみれば分かる。一通り書き終えた後で確認する。

※連動性がとれていない場合、計画自体に無理や不整合がある場合があるので要注意。

## 5. 申請書作成のポイント

### ⑦添付資料はほどほどに

新聞掲載記事コピー、活動現場の写真などの添付資料は有効。しかし、添付資料は程度が大事。大量の添付資料はマイナス効果になることも。

※添付資料はあくまで添付であることを忘れずに。

### ⑧読み合わせを行う

複数の目で見ること、誤字脱字のチェックだけでなく、内容の推敲も可能。

※専門知識や先入観のない団体外部の人にも読んでもらうとより効果的。

## 5. 申請書作成のポイント

### ⑨団体内部で共有する

一部のメンバーだけの動きとせず、団体内部で必ず共有する。団体の活動計画全体の中での位置づけを明確に。

※助成金は団体に与える影響も大きいので、事前の共有をしていないと団体の存続危機に陥ることも。

### ⑩期日には余裕をもって

締め切り直前に資料請求しているようではもう遅い。

※上記に取り組むのは時間がかかるので、動き出しは早めに。

## 5. 申請書作成のポイント

採択される申請書とされない申請書の違いは！？

- (1) ニーズや課題を明確に把握、説明できているか？
- (2) ニーズや課題へのアプローチが適切か？
- (3) 事業内容が合理的かつ実現可能か？
- (4) 成果が明確かつその後の展望にも期待がもてるか？
- (5) 助成金の使途に必然性があるか？

※審査担当者も上記の視点で申請書を読みます。

# 5. 申請書作成のポイント

## 「審査担当者の心をつかむ」申請書作成のポイント

### (1) 団体情報を積極的に記載

パートナーとしての信用を獲得するため、基礎情報、実績、現状、財政、実施体制などを積極的に記載する。

### (2) 企画の筋道と根拠のある数字

企画の筋道「問題→原因分析→原因解決の方法」を明確にし、かつ根拠のある数字の記載で理解を深めてもらう。

### (3) 成果やその後の展開への期待感

成果＝助成金による事業を実施することで、なにがどう変わるのか（変化）を書く。

事業終了後の展開を記述し、その後の展開を期待、安心させる。

## <助成金活用のツボ>

### 1. 備えあれば憂いなし

情報収集・開示・発信、事前相談を日ごろから心がける。

### 2. まずは身近なところから

灯台下暗し。地域には地域向けの助成金・補助金・支援者・相談先などが意外とたくさんある。

### 3. ご縁を大切に

お礼状、イベント案内、近況報告等をまめにし、一度築いたご縁を大切に育む。

## (アンケートにご協力下さい)

### <プロフィール>

荻上 健太郎 (おぎうえ けんたろう)

1973年米国ミシガン州生まれ (36歳)

1998年日本財団に入会

ボランティア活動支援、国際協力プロジェクト担当、CANPANの運営、主に、公益ポータルプロジェクト担当を経て、現在は、海洋グループ海洋安全・教育チーム。

日本を明るく元気にするため、公益活動を情報で支援する「公益活動の情報志援士」を自称。助成金講座、情報発信・公開講座、ブログ活用講座など、様々なテーマによる講座を全国各地を飛び回って実施中。

詳しくは、私のブログ「晴耕雨読」をご覧ください！

★アンケートは↓↓↓のブログからどうぞ★

(<http://blog.canpan.info/kaizokudan/>)

### <連絡先>

電話：03-6229-5305

E-mail：[k\\_ogiue@ps.nippon-foundation.or.jp](mailto:k_ogiue@ps.nippon-foundation.or.jp)

ブログ：<http://blog.canpan.info/kaizokudan/> 40